

令和5年度 授業改善推進プラン 算数科

① 「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の結果分析も含む）

※1、2、3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

1年	<p>【知識・技能】 10までの数のたし算やひき算の暗記ができておらず、簡単な計算でも、指やブロックを使わないと計算できない児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 たし算やひき算の意味、順序の表し方の理解が十分でない児童がいる。文章題において、何が分かっている、何を求めればよいのかを読み取れず、正しく立式できない児童がいる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に学習に取り組む児童が多い。一方、学んだことを日常生活に生かして問題解決に取り組むことが難しい児童がいる。</p>
2年	<p>【知識・技能】 たし算やひき算の筆算が定着しない児童がいる。答えの見通しを立てたり、確かめをしたりする児童が少なく、自分の間違えに気付きにくい。文章題を読み取り、演算決定をする力が弱い。特に「長さ」の計算など、測定と計算の複合問題になると、場面を読み取るのが難しくなる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に学習に取り組む児童が多い。一方、学んだことを日常生活で生かそうとする児童は少ない。</p>
3年	<p>【知識・技能】 時刻と時間についての理解が不十分で、特に「何分前」「何分後」の計算が正しく行えない児童がいる。大きな数では、位取りの仕組みや数の構成への理解が不十分である。</p> <p>【思考・判断・表現】 たし算、ひき算の筆算について、計算技能としては定着しているが、仕組みを正しく理解しておらず、計算の仕方を説明できない児童が見られる。また、文章題の題意を読み取ることに時間がかかる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 興味をもって学習に取り組む児童が多い。一方、学んだことを日常生活で活用できない児童がいる。</p>
4年	<p>【知識・技能】 教科全体の正答率では、区の目標値を4.5ポイント下回っており、特に60%未満の児童が全体の3割以上いる。個別の指導が重要である。「知識・技能」では、目標値を3.4ポイント下回っている。四則計算の中では、特にわり算の習熟度が低い。</p> <p>【思考・判断・表現】 目標値を8.5ポイント下回っている。本観点の内容の中では「□を使った式」の問題の正答率が大きく下回っているため、文章を図に表す練習、□を使うことや、式で表すことの良さを実感できるようにすることが課題である。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 本観点の内容の中の「時ごとと時間」「表とぼうグラフ」「長さ・重さ」の問題の正答率が平均して6.4ポイント下回っていて、特に苦手な単元と言える。また、無回答の児童も多く見られた。</p>
5年	<p>【知識・技能】 観点全体では目標値を上回った。数直線上に示された分数を読み取る問題は、目標値を10ポイント下回っている。「図形」領域の、分度器で示された角の大きさの目盛りの読み取る問題、四角形の対角線の性質の理解や、直方体の辺から平行なものを選ぶ問題の理解に課題がある。</p> <p>【思考・判断・表現】 ほとんどの領域で目標値を上回った。しかし、「図形」では、おおよその面積を見積もることや、2つの複合図形の面積が等しくなることを説明する力に課題がある。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 折れ線グラフや二次元表を読み取る問題で、目標値を5ポイント上回った。記述問題での無回答が多く、苦手意識のある児童が多いことが課題である。「図形」での正答率が低く、図形の領域に対する苦手意識がある。</p>
6年	<p>【知識・技能】 観点全体では目標値を1ポイント上回った。また、「数と計算」領域で、目標値を上回っている。一方で、小数のかけ算や、ひし形の面積を求める問題での正答率が著しく低い。また、目標値に達してはいるが、小数のわり算や約分、割合や基準量を求める問題にも課題が残る。</p> <p>【思考・判断・表現】 ほとんどの領域で目標値に近い正答率を示した。しかし、「多角形と円」の記述問題は目標値より著しく低く、類型外誤答と無回答が多かった。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 多くの領域で、目標値より高い正答率を示した。一方で、記述問題の誤答の多くが類型外や無回答である。問題文を読んで、分かっていること、聞かれていることを正しく読み取れるようにする必要がある。</p>

②授業改善策

- 1年
- 文章題では、「わかっていること」と「聞かれていること」に線を引いたり、キーワードに印を付けたりして、問題を正しく読み取らせる。
 - 5や10のまとまりを意識した指導を展開すると共に、計算カードや学習プリントを活用して定着を図る。
 - 具体物を使ったり、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉えさせたりして、数の読み方や表し方、数の構成や、順序、大小などを実感させて理解を深める。
- 2年
- ドリルやタブレットを活用して、たし算やひき算の筆算の練習問題を繰り返し解き、定着を図る。
 - 図を用いて問題場面を表す練習を繰り返し、複雑な問題文や量の計算問題でも演算決定ができるようにする。
 - 問題解決の過程や結果を、具体物・図・式などを用いて表現し、伝え合う活動を取り入れる。
- 3年
- 問題文を図に表して整理する練習を繰り返す。
 - 計算の仕組みについて考え、図や言葉を使って説明する活動を多く取り入れる。
 - 他教科や日常の生活場面で、時計や物差しを活用したり、かけ算やわり算などの既習を使う場면을意図的に取り入れる。
- 4年
- 習熟度の低い児童の苦手な分野を明確にして指導する。習熟度別少人数のクラス分けや課題設定に生かす。
 - 基本的な四則計算、正答率が大きく目標を下回った単元については、宿題などで定期的に復習に取り組む。
 - 立てた式を基に自分の考えを説明する活動を授業に取り入れ、式の重要さを理解させる。
 - 問題解決学習の中で、話し合っ解決する機会を増やし、難しいと感じる問題にも対応できる児童を育てる。
- 5年
- 分数の計算問題の練習と併せて、図形の性質についての理解を深める指導を繰り返し、知識・技能の定着を図る。
 - 数量関係を正しく捉えられるように、図や数直線を使って説明する活動を多く取り入れる。
 - 他教科でも、図形や分数に関係する表現を積極的に取り上げ、図や数直線を用いて量を捉えさせることで、図形や分数に関する量感を身に付けさせる。
- 6年
- 分数や、小数のかけ算やわり算、割合の計算問題の練習を行うことと併せ、図形の面積や小数の概念についての理解を深める指導を繰り返し、知識・技能の定着を図る。
 - 図や言葉を使って考えを説明する活動を多く取り入れ、考え方を記述できるようにする。
 - 算数用語、図形の性質、計算のきまりなどの確認を繰り返し行う。また、主語と述語や、聞かれていること、分かっていることを整理して読み取る練習を繰り返す。
 - 日常的に、四則演算のプリント等に取り組み、計算力を高める。